

福岡市における酸性雨の状況（2008～2022 年度）

環境科学課 富濱大介・辻井温子・中島亜矢子・島田友梨

第 50 回九州衛生環境技術協議会大気分科会

福岡市では 1990 年度から酸性雨調査を開始し、1991 年度からは、全国環境研協議会による全国調査に参画している。今回、本市の降水における長期的な経年変化について解析した。

調査地点は曲渕（市街化調整区域）及び城南（商業地域）の 2 地点とし、2008 年度から 2022 年度の 15 年間を解析の対象とした。降雨の採取は週に 1 回行い、分析方法及び手順については湿性沈着モニタリング手引き書に従った。

本市の 15 年間の降水組成及び降水による酸・中和成分の沈着傾向を解析した結果、酸性雨は継続している一方で、pH の上昇及び酸性沈着量の減少傾向から、酸性化の改善が示唆された。また、N/S 比が上昇傾向であったことから、中国の排出ガス規制強化の影響による酸性成分の組成変化の可能性が考えられた。